

Club BUSINESS FARMERS

『農業経営者』読者の会 会報

CONTENTS

第31回定例セミナー報告

第30回定例セミナー報告

7~8月の定例セミナーご案内

6~7月の活動・参加申込書

Vol.21 2009年6月1日発行

■発行・編集／株農業技術通信社『農業経営者』読者の会 事務局(担当:長谷川)

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-18-25 康洋ビル9F TEL 03-3360-2697 FAX 03-3360-2698

第31回定例セミナー報告 私の加工ジャガイモ挑戦記 〜茨城県での土地利用型経営の実践〜

5月15日開催の第31回定例セミナーでは(有)ソメノグリーンファーム代表取締役社長の染野実氏に講演頂いた。同社は茨城県坂東市にある県内でも有数の土地利用型農業を営む農業法人である。

染野氏には本誌08年12月号のルポにもご登場頂いた。セミナーでは、ルポでは触れていない加工ジャガイモ栽培への挑戦の動機と、その経営における意義についてお話を頂いた。

米麦ソバ栽培からなる経営で、作業量の差が月によって大きい事が問題だと感じていた同氏は、05年カルビー向け加工用ジャガイモを始める。最大の動機は年間の作業を均一化することだった。

それまで同社の作業暦では7月に主だった作業が入っていなかった。一方、府県のジャガイモ栽培では、7月が収穫期で最も繁忙期となる。初期の機械投資などのハードルはあったが、人材を有効

に活用するのに最適の作物だった。

結果的に初年度から4t近い反収を継続。その成功を支えたのは、パートナーとしての集荷業者や、目線のあった農業経営者とのネットワークだった。ジャガイモの集荷は(有)油屋という集荷業者が担っている。今年は培土がうまくいかず、芯ずれが発生した。そのとき、小型耕うん機を持って駆けつけたのが同社のフィードマンだった。畦間に耕うん機を通して、補正を手伝う。単なる物流の中継業者ではない。また同社が組織する産地、茨城ウエストポテトの会では頻繁に情報交換などを行って、互いに技術力を高めている。



米麦ソバ栽培からなる経営に
加工用ジャガイモは最適だった

セミナーDVD
6月30日
発売

(有)ソメノグリーンファーム
代表取締役社長

染野 実氏

第30回定例セミナー報告

『野菜ルネッサンス』の取り組み

～見た目ではなく、栄養価や機能性を評価する流通販売～



デリカフーズ(株)が発行する
医・食・農情報季刊誌
『Farm to Wellness』
(創刊号)

セミナーDVD
6月10日
発売

東京デリカフーズ(株)取締役社長

大崎善保氏

青果物にも車と同じような
「性能表示」が必要

4月24日の定例セミナーではデリカフーズグループ東京デリカフーズ(株)取締役社長の大崎善保氏をお迎えし、「『野菜ルネッサンス』の取り組み～見た目ではなく、栄養価や機能性を評価する流通販売～」と題して講演をお願いした。

デリカフーズグループではホールディング制をとっている。傘下には東京デリカフーズ(株)、名古屋デリカフーズ(株)、大阪デリカフーズ(株)があり、各地域の事業所で野菜の加工配送を行っている。またデザイナーズ(株)という関連子会社では、専門的に野菜の分析・研究を行っている。最近ではここでメニューの開発も行い、取引先の外食産業、ひいてはデリカフーズグループをサポートしている。

食事は処方箋になる!! デリカスコアの導入へ

「将来的には食事が処方箋になります。外食産業は食の病院に、スーパーは食の薬局になるべきです。病気は食事で治すというところへシフトしていくだろうと考えています」

今後、高齢者の割合の変化からマーケットの縮小、医療費の増大が見込まれる。一方、医学界はヒト遺伝子の解析の完了により治療医学から予防医学へ移行していくと考えられる。健康は遺伝因子と環境因子に影響されるが、遺伝子から自分の傾向を知り、食で予防することが可能だ。体調からメニューを選択していくこと

により、食事が処方箋になる。

そのためには野菜の持つ性能が、栽培方法や産地などではなく、科学的な根拠で示されなければならない。しかしこれまでの青果物流通では、野菜は流通しやすい形であるか、年間流通できるかなどで評価されてきた。また育種においても、収量を上げることが重視した品種改良が行われてきた。

例えば車なら性能表示を基準に価値が認められ、その価値によって消費者が選ぶ仕組みが出来あがっている。そういった仕組みが今後の農業の発展過程で大きなキーワードになるとデリカフーズは考える。デリカフーズでは野菜の評価基準を形から中身へ移すべく今年から「デリカスコア」を導入する。デリカスコアとは多面的な評価基準を持ち野菜の品質を「見える化」するシステムである。

病中病後や授乳期など個人の体調にあわせて摂取することで、人間の生命に貢献できる食を、デリカスコアによって実現するのが目的だ。

「次世代の農業は、生産と流通と消費を価値観で結ぶ事から始まります。農業は土、水、空気、太陽を原料とした食と酸素の製造業です。自然を原料にして、食と酸素を提供するのが農業です。本当に重要で誇り高い職業であると考えています。日本農業をあるべき姿に導くことが、それに携わるわれわれの使命でないかと考えています」

2009年7～8月 定例セミナーのご案内

第35回

●日程が変更になりました

7月17日(金) 16:00～18:00

会場: (株)農業技術通信社内セミナールーム

29歳の農業改革!! 『Agrizm』で実現したいこと

農業の高齢化?担い手不足?僕たち農業青年は、世間から存在を意識されていないのか?農業とは、楽しくて、ドキドキして、厳しいこともある分、アツい。だからこそ若い人が大勢取り組んでいること、ビジネスチャンスを狙っていることを知って欲しい……農業の本当の姿を伝え、ネガティブイメージを払拭する29歳の農業改革を、『Agrizm』編集長が語る。

「Agrizm」編集長・全国農業青年クラブ連絡協議会会長

荻原昌真氏 (おぎはら・まさちか)



PROFILE

1979年長野県生まれ。大学卒業後、(有)信州ファーム荻原に入社、現在は農場長。経営面積は水稲40ha、小麦5ha、大豆12ha、ソバ3ha。オリジナルブランド米「やえはら舞」をはじめ、自家製パン・菓子等も販売する。08年から全国農業青年クラブ連絡協議会会長。09年新雑誌「Agrizm」を創刊、編集長。

第36回

7月24日(金) 16:00～18:00

会場: (株)農業技術通信社内セミナールーム

トマトの価値をもっと高めるために ～野菜の機能性を追求する研究開発～

トマトを中心とした野菜加工食品メーカーであるカゴメ(株)。同社の総合研究所では今、トマトの価値をもっと高めていくための研究開発プロジェクトを進めている。トマトの成分が入った化粧品、トマトのうま味をベースにした調味料など、マーケットのニーズに応じて従来のトマトとは異なる用途や、機能性を追求する研究開発の最前線を解説する。

カゴメ(株) 常務執行役員

平岡泰樹氏 (ひらおか・やすき)



PROFILE

1944年福岡県生まれ。68年九州大学農学部卒業後、同年カゴメ(株)入社。92年商品企画部長、96年取締役を歴任。業務用ビジネス・ユニット・ディレクターなどを経て、01年常務取締役に就任。東京支店長、総合研究所初所長を務めた後、現在は常務執行役員プロジェクトを担当する。

第37回

8月7日(金) 16:00～18:00

会場: (株)農業技術通信社内セミナールーム

これも農業!! 私の顧客は動物園

京都府南山城村。バス会社すら撤退した山奥の山村で、全国で2つとない飼料ビジネスを展開する(有)クローバーリーフ。売るのは「動物園の飼料」。無農薬で育てた牧草を刈りとり、ユーカリ、樫、竹などとともにつけるというビジネスだ。「誰でもできそう」などと思ったら大間違い。そこには食うや食わずの苦闘から生まれた経営哲学と工夫があるのだ。

(有)クローバーリーフ 代表取締役社長

西窪 武氏 (にしくぼ・たけし)



PROFILE

1949年京都府生まれ。68年京都府立木津高校農業科卒業後、酪農業の法人に就農。その後1年間米国の農業実習に参加。帰国後独立して乾燥牧草ビジネスを開始する。84年から京都市動物園に生の牧草を納入して事業が本格化。現在は大阪・天王寺動物園など全国12カ所の動物園と取引がある。年商約5000万円。

第38回

8月28日(金) 16:00～18:00

会場: (株)農業技術通信社内セミナールーム

数字を利用した農業革命 ～他産業では当たり前を農業で～

農業が他産業と同様の経済性を得るためには、数字による合理的管理が必須だ。しかし従来の農業技術では限界があり、数字を元にした技術に実用性はなかった。「必要な収量を、必要な時期に、必要な品質で得るためには、何が、いつ、どのように、どのくらい必要なのか」を数字で明らかにするJuncropシステムについて開発者の岡本信一氏に解説頂く。

(有)アグゼス 代表取締役社長

岡本信一氏 (おかもと・しんいち)



PROFILE

1961年東京都生まれ。日本大学文理学部心理学科卒業。北海道と埼玉での農業研修の後、2年間の派米農業研修を経てバイオニアハイブレッDJヤパン(株)入社。95年農業コンサルタントとして独立。98年(有)アグゼス設立。農業関連メーカーの技術顧問、農業法人や食品メーカーのコンサルタントを兼任している。

第33回

6月12日(金) 16:00~18:00

会場: (株)農業技術通信社内セミナールーム

日本 GAP 協会 専務理事兼事務局長

武田泰明氏 (たけだ・やすあき)

世界と日本のGAP最新情報

現在、日本のGAP認証数は92。GAPは農場管理の新しい道具であり、同時に農場管理の世界的標準化でもある。IT、会計、ISO、携帯電話、スポーツのルールなど、標準規格を海外に握られて、日本が不利になっている例は多い。農業ではどうなのか? 農産物輸入国として、世界のGAP構築への発言力は十分か? 世界と日本のGAP最新情報を解説頂く。



PROFILE

1976年北海道生まれ。筑波大学生物資源学類卒業後、(株)ケーアイ・フレッシュアクセスを経て、筑波大学大学院経営政策科学研究科へ進む。その後、三菱商事(株)で食品営業や食品工場の品質管理などを担当した後、退職して日本 GAP 協会の創立に携わる。08年から現職。

第34回

7月3日(金) 16:00~18:00

会場: (株)農業技術通信社内セミナールーム

(株)インソップアグリシステム 取締役部長

馬渡智昭氏 (もうたい・ともあき)

精密農業が拓く フードビジネスの可能性

(株)インソップアグリシステムの精密農業では、GPS測量した圃場地図をもとに土壌中の農薬や肥料のバラツキ、作業履歴、品質等のデータを収集し、可変施肥によって資材の過剰投与を抑えている。品質安定化や生産コスト低減、環境保全などの実現とともに、この技術を核として同社が展開するフードチェーンシステム構築事業にも視野を広げる。



PROFILE

2002年オホーツク地域の異業種交流の積み重ねから、農業者6名と企業6社の出資により(株)インソップアグリシステムを設立(現在は農業者7名と企業9社)。同地域の農業を競争力のあるビジネスとして確立し、精密農業や環境保全型農業を実現すると共に、安心で安全、健康な食を消費者に届けることを目指す。

◎セミナー参加申込・DVD購入

■参加を希望する項目に して、必要事項をご記入下さい。

月刊「農業経営者」
定期購読者 **無料**

〈セミナー〉	〈懇親会への参加〉	〈セミナーDVDの購入〉
5/15 (金) 染野 美氏 終了	終了	<input type="checkbox"/>
5/29 (金) 藤田太一氏 終了	終了	<input type="checkbox"/>
6/12 (金) 武田泰明氏 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7/ 3 (金) 馬渡智昭氏 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7/17 (金) 荻原昌真氏 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7/24 (金) 平岡泰樹氏 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8/ 7 (金) 西窪 武氏 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8/28 (金) 岡本信一氏 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※セミナー受講料は定期購読者無料、一般参加者5,000円です。

※セミナー終了後(18:00~20:00)には、懇親会を予定しております。(会費1,000円)

※セミナーDVDは1枚2,000円(税込)です。DVDの発売はセミナー実施の翌月末です。

◎定期購読申込

■いずれかに して、必要事項をご記入下さい。

1年(12冊) 18,000円

送料サービス!

2年(24冊) 33,000円

お得な3,000円割引!

3年(36冊) 45,000円

お得な9,000円割引!

※本誌セミナー(年22回)参加料込
(一般5,000円/回)

※本誌セミナー全音声ダウンロード
(年22回)込(一般視聴不可)

お名前

会社名
農場名

TEL

E-mail

FAX

セミナー音声聴講パスワード希望

ご住所 〒

お申込方法 FAX 0120-410-359 まで送信してください。

(『農業経営者』HP <http://www.farm-biz.co.jp/> からもお申込できます)

お問合せ/(株)農業技術通信社「農業経営者」読者の会 事務局 TEL 0120-555-184

※セミナーへの無料参加は、定期購読1件につき、1名様までです。2名様以上でお申込される場合、2人目より2,000円をいただきます。予めご了承下さい。